

2026 年 9 月 4 日

韓国・8月輸出は引き続き半導体がけん引役に(Asia Weekly)

～アジアでは、生活必需品の物価上昇に通貨安も重なり、幅広くインフレ圧力が強まる動き～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/31(月)	(韓国)7月鉱工業生産(前年比)	+3.6%	+4.4%	+6.0%
	(中国)8月製造業 PMI	49.8	49.6	49.2
	8月非製造業 PMI	49.0	--	49.0
	(インド)4-6月実質 GDP(前年比)	+7.8%	+7.1%	+8.6%
9/1(火)	(韓国)8月輸出(前年比)	+68.7%	+62.6%	+63.0%
	8月輸入(前年比)	+22.5%	+24.7%	+26.5%
	(中国)8月 RatingDog 製造業 PMI	51.5	51.0	50.9
	(インドネシア)8月消費者物価(前年比)	+3.19%	+3.13%	+2.88%
	7月輸出(前年比)	+6.05%	+3.36%	+8.84%
9/2(水)	7月輸入(前年比)	+27.02%	+24.00%	+34.27%
	(韓国)8月消費者物価(前年比)	+3.1%	+3.2%	+2.8%
	(オーストラリア)4-6月実質 GDP(前年比)	+2.1%	+1.8%	+2.5%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	2.75%	2.75%	2.50%
9/3(木)	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	2.75%	2.75%	2.75%
9/4(金)	(フィリピン)8月消費者物価(前年比)	+6.1%	+6.0%	+6.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～半導体が引き続き輸出をけん引する一方、幅広くインフレ圧力が強まっている～

31日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+3.6%となり、前月(同+6.0%)から伸びが鈍化した。しかし、前月比は+0.25%と前月(同+6.67%)から2ヵ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。鉱業部門の生産が2ヵ月連続で拡大しているほか、製造業の生産も底堅く推移するなど、幅広い分野で生産拡大の動きが続いている。世界的なAI(人工知能)・半導体関連需要の旺盛さを反映して、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産は引き続き堅調に推移する一方、電気機械関連や自動車など輸送用機械関連の生産は拡大の動きに一服感が出るなど、分野ごとにばらつきがみられる。

1日に発表された8月の輸出額は前年同月比+68.7%となり、前月(同+63.0%)から伸びが加

速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、堅調な動きが続いている。財別では、世界的なAI・半導体関連需要の旺盛さを反映して半導体など電子部品関連の輸出が引き続き堅調に推移するとともに、石油製品や鉄鋼製品などの輸出も底堅く推移している。一方、自動車や自動車部品、船舶の輸出は減少しており、分野ごとにばらつきがみられる。国・地域別では、最大の輸出先である中国向けが大幅な伸びをみせているほか、米国向けも堅調に推移している。EU（欧州連合）向けも増加が続く一方、中東向けは減少するなど、地域ごとにばらつきがみられる。一方、輸入額は前年同月比+22.5%となり、前月（同+26.5%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヵ月連続で減少したと試算されるなど、堅調さが続く輸出と対照的な動きをみせている。ただし、原油の輸入量は減少したものの、輸入単価の上昇を反映して原油輸入額は増加したほか、輸出の堅調さを背景に半導体製造装置をはじめとする素材・部材関連の輸入にも底堅い動きがみられる。その結果、貿易収支は+347.48億ドルとなり、前月（+303.92億ドル）から黒字幅が拡大している。

2日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+3.1%となり、前月（同+2.8%）から加速して2ヵ月ぶりに3%を上回る伸びとなった。前月比も+0.23%と前月（同▲0.18%）から2ヵ月ぶりの上昇に転じている。前月比では、異常気象の影響もあり生鮮品を中心とする食料品価格が上昇に転じるとともに、エネルギー価格も上昇するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっている。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+3.4%となり、前月（同+2.6%）から加速して中銀の物価安定目標（2%）を大きく上回るとともに、2023年5月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.18%と前月（同+0.39%）からペースこそ鈍化したものの、上昇が続いている。エネルギー価格の上昇による輸送コストの増加に加え、これまでのウォン安を背景とする輸入物価の上昇も重なり、幅広い財の価格が押し上げられている。さらに、半導体産業の一部企業では営業利益などの一定割合（N%）を従業員の成果報酬の原資とする「N%成果給」が導入されており、他産業でも導入を求める動きが広がっている。こうした動きが賃金上昇圧力を強めれば、労働コストの増加を通じてサービス物価にも上昇圧力が波及する可能性があり、先行きも幅広いインフレ圧力への警戒が必要となっている。

図1 KR 鉱工業生産の推移

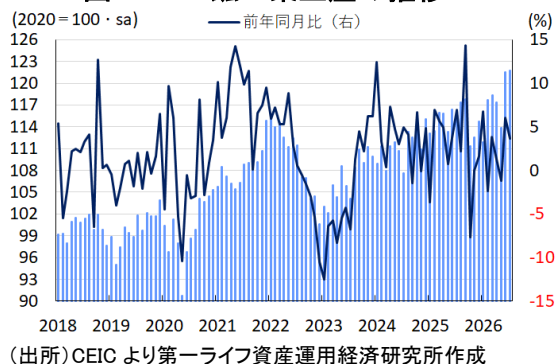


図2 KR 貿易動向の推移

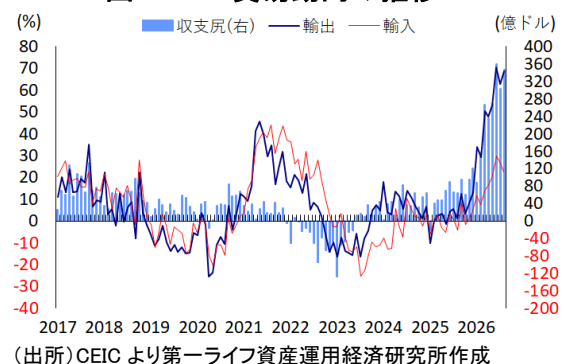
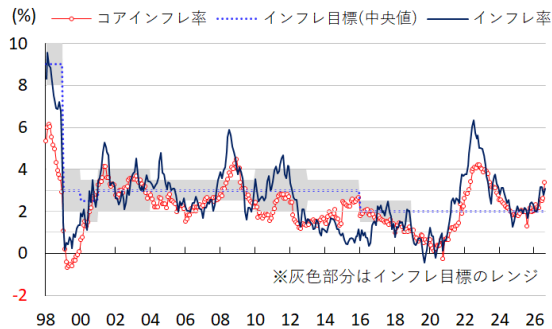


図3 KR インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[インドネシア]～生活必需品にとどまらず幅広くインフレ圧力が強まっている～

1日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+3.19%となり、前月（同+2.88%）から加速して2ヵ月ぶりに3%を上回る伸びとなった。前月比も+0.21%と前月（同▲0.14%）から2ヵ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の緩やかな上昇が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇基調を強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.92%と前月（同+2.76%）から加速しているものの、総合インフレ率とともに中銀目標（2.5±1%）のレンジ内で推移している。なお、統計の連続性に関する問題はあるものの、コアインフレ率は2023年3月以来の高い伸びとなっている。前月比も+0.21%と前月（同+0.14%）から上昇ペースが加速しており、金融市場での通貨ルピア安を背景とする輸入インフレが幅広い財価格を押し上げるとともに、サービス物価も上昇基調を強めるなど、インフレ圧力が広がっている様子が見える。

また、同日に発表された7月の輸出額は前年同月比+6.05%となり、前月（同+8.84%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ち感が強まっている。財別では、石炭など鉱物資源関連の輸出に堅調な動きがみられるほか、農産品関連の輸出にも底堅い動きがみられるものの、原油高の一服を反映して石油製品関連の輸出額が下振れしたほか、製造業関連の輸出にも頭打ちの動きがみられる。一方、輸入額は前年同月比+27.02%となり、前月（同+34.27%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヵ月ぶりの減少に転じたことと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、輸出と同様に頭打ち感が強まっている。原油高の一服を反映して、原油や石油製品関連の輸入額に下押し圧力がかったことが輸入全体の重しとなっている。その結果、貿易収支は+1.22億ドルとなり、前月（▲4.51億ドル）から3ヵ月ぶりの黒字に転じている。

図 4 ID インフレ率の推移

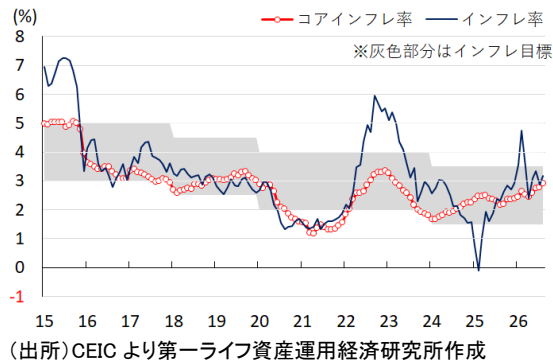
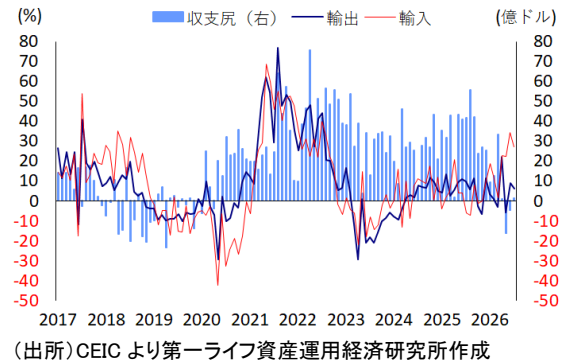


図 5 ID 貿易動向の推移



[フィリピン]～生活必需品の物価高が続くなか、ペソ安もインフレ圧力を強めている～

4日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+6.1%となり、前月（同+6.2%）からわずかに鈍化したものの、5ヵ月連続で中銀が定める目標レンジ（2～4%）を上回る推移となった。しかし、前月比は+0.59%と前月（同+0.07%）から上昇ペースが加速しており、前月比では原油価格の再上昇を反映してエネルギー価格が上昇しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっている。なお、コアインフレ率も前年同月比+4.1%となり、前月（同+4.2%）からわずかに鈍化して3ヵ月ぶりの低水準となったものの、中銀の目標レンジ上限である4%を4ヵ月連続で上回った。前月比も+0.37%と前月（同+0.15%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇による輸送コストの押し上げなどを通じて、幅広い財・サービス価格に上昇圧力がかかっている様子がうかがえる。さらに、足元の金融市場では通貨ペソが米ドルに対して最安値を更新するなど下落圧力を強めており、先行きは輸入物価の上昇を通じてインフレ圧力が一段と強まる可能性にも注意が必要となっている。

図 6 PH インフレ率の推移



以 上